

## ② 水景施設の設置

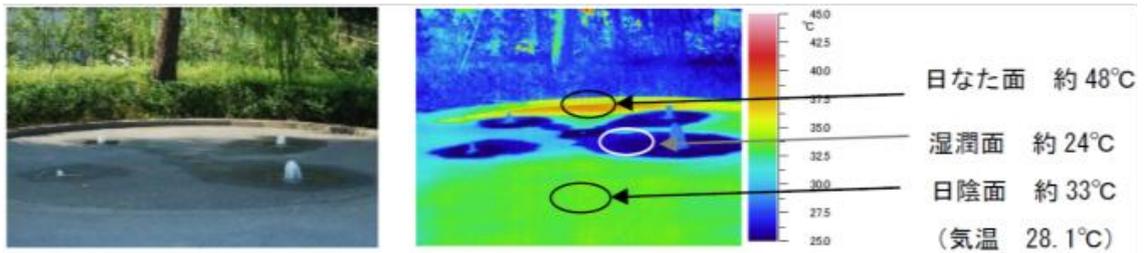


図 3.38 噴水施設などにおける熱画像測定

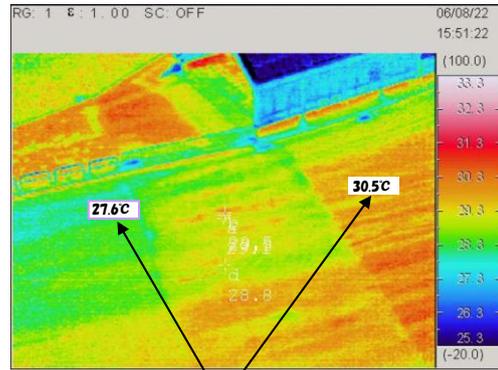
東京都港区 東京ミッドタウン, 2008/9/9 14時 資料) 平成 20 年度環境省調査

水分が蒸発することで、地表面温度や気温が低下する。また環境省調査では、噴水による湿潤面の表面温度は、日向面と比べて約 24°C、日陰面に比べ約 9°C低い結果がでている。

## ○地表面による適応策

### ① 舗装の透水性化・保水化

平成18年8月22日16時20分ごろ 降雨後30分経過 気温26.3°C



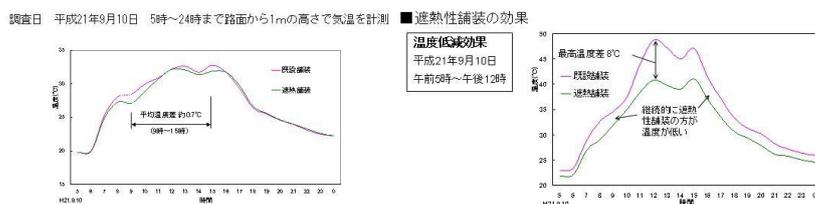
アスファルト舗装と比べ、概ね3°C低下

※気温は地上気象観測所(大阪)における観測値

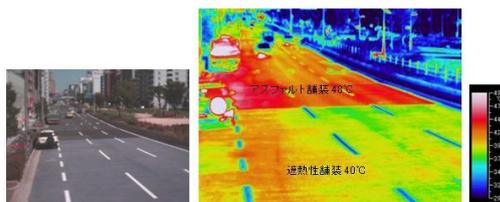
出典) 大阪府資料

舗装を透水性化・保水化することにより、水の蒸発作用等によって、舗装の温度上昇を抑制することができる。歩道部分の透水性化・保水化をすることにより人への直接的な放射を防ぐことができ、車道部分の透水性化・保水化をすることにより、人への間接的な放射を防ぐことができる。

## ② 舗装の高反射化



■ 遮熱性舗装 熱画像  
平成21年9月17日午前10時撮影 (最高気温 28.5°C 天候: 晴)



出典) 大阪市資料

舗装を高反射化させることにより舗装の温度上昇を抑制することができる。歩道部分の高反射化をすることにより人への直接的な放射を防ぐことができ、車道部分の高反射化をすることにより、人への間接的な放射を防ぐことができる。

## ○その他の適応策

### ① 打ち水の活用



出典) 大阪市資料

打ち水をすることにより、水の蒸発による気温低減効果が期待できるだけでなく、地域ぐるみの「打ち水イベント」を自治体や地元自治会（地域）等と連携・協力して実施するため、府民個々人のライフスタイルの変革を誘導し、府民の省エネ意識を高めることにも繋がっている。